

1. 公開講座紹介(第四回)～稲富健一郎名誉教授に学ぶ公開講座の極意～

<香川大学公開講座と言えば…>

まず最初に、過去3年間で受講者数の多かった講座Best5をご覧ください。(受講者数の多い講座＝良い講座と単純には言えませんが、ご参考までに。)

年度	部局	担当講師	講座名	受講者数
H17	理事	高津義典	いま、文明はどこへ向かうかー宗教、資本主義、地球環境、日本文明	45
	医	石田俊彦 外5名	病気になる知恵と工夫	43
	教育	中谷博幸	芸術と聖書	42
	名誉教授	稲富健一郎	シェイクスピアの初期ロマンティック・コメディの愉しみー人間の愚を映す鏡	39
	大教センター	最上英明	オペラの世界ードイツ文学とオペラ	36
H16	医	万波俊文 外4名	生活習慣病の予防に役立つ新しい知識	46
	教育	坂井聡・中邑賢龍 外1名(外部)	障害のある子どものためのコミュニケーション支援セミナー	43
	大教センター	最上英明	オペラの世界ー歴史をたどって	41
	名誉教授	稲富健一郎	シェイクスピア英国歴史劇の面白さー大四部作	40
	法	松尾邦之 外1名(外部)	知っておきたい年金制度	29
H15	医	阪本晴彦 外5名	血液の医学	104
	名誉教授	稲富健一郎	シェイクスピア英国歴史劇の面白さー小四部作	41
	工	山崎敏範・香川孝司・安藤一秋	パソコン入門講座	34
	経済	金東吉 外1名(外部)	インターネット時代の証券投資:賢い投資への冒険	31
	法	栗原真人	ロンドンの歴史探訪	25



過去3年のBest5いずれにもお名前が挙がっているのが稲富健一郎名誉教授(香川県立医療大学教授、英国文学)です。どのような組織にも「名物」と呼ばれる人物はいるかと思いますが、稲富先生は過去3年どころか、過去21年(昭和60年度から平成17年度)にわたって長らく公開講座をご担当頂いており、まさに香川大学公開講座の「名物教授」と呼ぶに相応しいかと思われます。

稲富先生は、英国ロンドンに留学されていた頃(1974-5, 1981-2年)、モーリー・コレッジに足繁く通われ、成人に開かれた大学に大いに感銘を受けられたそうです。以後毎年英国ロマン派の文学、あるいはシェイクスピアについて講義をご担当頂いています。教えた

受講生は、公開講座だけで、なんと延べ1,122人にも及びます!

<公開講座の極意?>

さて、そんな稲富先生に、本年度最後のNEWSLETTER発行にあたって、香大の後輩教員へのメッセージをかねて「公開講座の極意」を伺ったところ、次のようなお答えが帰ってきました。

「極意? そんなものはありませんよ。我々が大学で研究しているというのは、温室で栽培されているようなもので、外のことは分からない。教えるなんてとんでもない! 講座に集まってこられる市民の方々に、自分の経験していないこと、思ってもみなかったようなことを学ぶことが主でした。シェイクスピアという主題が幸いしたとも言えますね。生きるとはどうゆうことかという問題を一緒に考える、そんなロンドンでの経験をもう一度高松で再現したい、その強い情熱に動かされているうちに、20年が夢のように過ぎていた。名物だなんて!」



【講座終了後、有志が集まってのお食事会】

2.“公開講座”考(第三回)

(1) アンケート結果から見る公開講座(その3)

今年度のNEWSLETTERでは公開講座のアンケート結果を紹介してきましたが、今回は自由記入欄に書かれたコメントを取り上げることにしましょう。まず、こんなコメントから。

「テキストの字が小さい。もう少し大きくしてほしい。」

このコメント、実は多いのです。前々号でご紹介しましたとおり、公開講座受講生の半数以上は50代以上の方です。その点、ご配慮して頂けると有り難く思います。その他、「資料の大きさは統一して欲しい。」「時間をオーバーされる方がいらっしまったが、時間内にして頂きたい。」という声もありましたので、次年度以降公開講座を担当される先生方には、ぜひ心がけて頂きたいです。

「仕事を持っている関係で、1ヶ月で毎週の企画は参加しづらい。」

「隔週か毎月1回で年間を通して頂けると有り難い。」

公開講座受講生＝主婦や退職者と思っていられちゃるかもしれませんが、会社員や公務員、自営業など、仕事を持っておられる方も受講していられちゃいます。また無職であっても家庭の事情や地域活動などで、毎週の参加が難しい方もおられます。今後企画される際の参考にして頂きたいです。

また、次のようなコメントは全教員が心しておくべきことかと思えます。

「インターネットの普及などにより、在宅でもある程度の独学で教養を入手できる時代になっているが、ぜひとも大学でしか学べないような講座の内容や専門家のスタッフによる講師の編成で充実した講座を開いてほしい。」

ところで、公開講座への参加回数とアンケート自由記入欄の記入の有無をクロスすると、リピーターほど無記入の方が多いことが分かります。公開講座受講生の3分の2弱を占めるリピーターの方々の声を聞くためにはアンケート票を工夫する必要があるようです。(文責:山本珠美)

(2) 成人教育理論の視点から公開講座を考える(その3)

今回は、M. ノールズの成人教育学(Andragogy)を紹介しながら、成人の特性から導出される成人教育の原理を見てきました。これを端的に示しているのが下表です。ノールズは学習者と学習内容によって学習のスタイルを最適化することが肝要だとしています。(文責:清國祐二)

	ペダゴジー:(子ども対象の)教育学	アンドラゴジー:成人教育学
学習者の概念	学習者は依存的にとらえられ、教師が学習への責任を負うと考えられる。	学習者は成長に合わせて自律性が高まるととらえられ、教師はこの変化を促進する役割を担う。
学習者の経験の役割	学習者の経験にはあまり価値が置かれない。教師の経験や教科書、視聴覚教材等の伝達に重きが置かれる。	学習者の経験は豊かな学習資源と考えられる。学習者自身の学習への認識も経験から得たものに意味を付与しがちである。
学習へのレディネス	社会の要請が学習を生み出す。かなり標準化されたカリキュラムを同年齢に効率的に伝達することに主眼が置かれる。	現実生活の課題や問題が学習の必要性を喚起する。そこでは課題解決のための道具や手法の提供が重要となる。
学習への方向づけ	科学の論理にしたがった教科単元により組織化されたカリキュラムが学習を方向づける。未来の基礎をつくる学習である。	課題解決へつながる学習であり、即時的応用が期待される。明日の生活を変える知識や技術が基本となる。

センター雑感

公開講座紹介で取り上げた稲富先生は、本職とは別に、もう一つ「テノール歌手」という顔をお持ちです。とても60代とは思えない(失礼!)艶とハリのある美声で、オペラのアリアから日本の演歌まで、また会場もコンサートホールから温泉旅館、あるいは喫茶店など様々な場所で、数多くの名曲を披露して下さいます。小学校で宇宙戦艦ヤマトを歌われたこともあるとか。年数回は演奏会に出演されており、そのバイタリティには、ただただ敬服するばかりです。(山本)